

**足場資材のハウスで水耕栽培にチャレンジ始めた建設会社！**

構造的不況に直面していると云われている建設業界では全国的に新規事業に対する積極的なアプローチ姿勢が目立ちます。地域密着を考えると農業しかないという農業分野進出を選択される例も増えてきています。そんな事例の中でユニークな発想で展開されている名神高速関ヶ原インターから程近い岐阜県養老郡養老町の乾建設工業の田中義廣社長(76歳)をお訪ねしました。

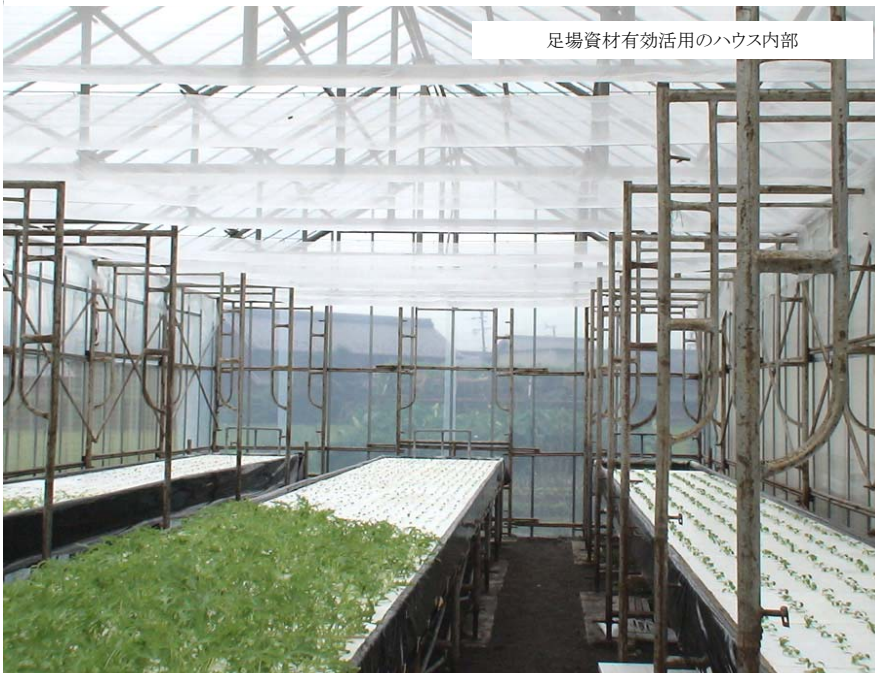
雇用確保の観点から自動車リサイクル事業・建設廃棄物処理事業など

の検討を進められました。初期設備投資額が大きいこと、中古車の海外輸出が拡大しリサイクル品の確保が難しくなってきたなどの状況から断念されたとのこと。そんな背景から水耕栽培など農業分野を真剣に検討しはじめ弊社農場にも何回か見学に来られていました。

この4月とうとう保有する建築足場資材を活用して実験ハウス(間口5.5m×奥行15m)を自製されました。栽培装置部分は弊社施工ですがご覧のとおりなかなかの出来映えです。

既に水菜、小松菜、ホーレン草の試験栽培を終え収穫品は地元農協経由での市場販売、あるいは地元給食弁当会社への直販などを実施し品質など高い評価を得ておられ、値建ても確保できそうと事業展開についての感触は上々とのこと。

来期は200坪規模で同様なハウス建設を予定されており、将来的には保有倉庫を活用した植物工場建設と田中さんの夢は膨らんでいます。作れる、売れるの感触を持ちたいと言われた姿が印象的でした。(編集子)



足場資材有効活用ハウスの内部



どうですかと笑顔満点の田中社長



基礎は無し、平板敷設のみ



水耕ベッド、制御系、循環ポンプ



夢は隣接倉庫内での植物工場と